

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年6月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072800293
法人名	医療法人 原会
事業所名	グループホーム 旭ヶ丘
所在地	群馬県伊勢崎市間野谷町135-1 (電話) 0270-70-5111
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成20年6月11日

## 【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	A棟 7人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.62人
職員数	B棟 7人	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算	7人
職員数	C棟 6人	常勤 6人, 非常勤 人, 常勤換算	6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	日額2,000 円	その他の経費(月額)	電気代 1,500円
敷金	有( ) 円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有( 300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	150 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 (5月1日現在)

利用者人数	27 名	男性 5 名	女性 22 名
要介護1	8 名	要介護2	13 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	1 名
A棟年齢	平均 83 歳	最低 74 歳	最高 90 歳
B棟年齢	平均 88.5 歳	最低 82 歳	最高 94 歳
C棟年齢	平均 88 歳	最低 83 歳	最高 100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊勢崎佐波医師会病院
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員は運営理念を共通認識し、ケア実践に取り組んでいる。本人の家庭の延長線で生活リズムを崩さずに、一人ひとりのペースを(起床時間や食事、入浴等)尊重し、その人らしく生活が送れるように支援に取り組んでいる。生活の中で一人ひとりの力量に応じた役割があり職員と一緒にやっている。行事や散歩、外食、買い物等、生活にメリハリを考慮し、楽しみや気晴らしへの支援を実践している。また、各ユニット間に行き来しやすい環境であって玄関ホールに寛ぎの場があり、利用者同士の交流がはかられ楽しそうに過ごされている様子が見受けられた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題①ホーム独自の運営理念の掲示がしてある。②ホーム内の環境は家庭的な雰囲気づくりがされている。③地域の人との交流は散歩や買い物、近隣の子供、地域の行事に参加する等の改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が自己評価票を作成し、評価の意義を職員全員に伝え、評価項目の内容を確認しながら話し合い、自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に開催しており、事業所から利用者の状況や行事報告等を行い、参加者から質問や意見、要望を受け話し合っている。そこでの意見等はサービス向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。運営推進会議に参加してもらい、意見箱の設置、年1回アンケートを実施、介護計画の説明時等で意見や要望を聴くように努めている。意見、要望、苦情等は運営に反映させるようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、回覧板に事業所の行事へのお誘いのチラシを入れ参加してもらい、地域の人が立ち寄ってくれる、散歩時に挨拶や話したり、近隣の子供との交流、地域行事への(鯉のぼり上げる会、間野谷祭り、文化祭等)参加をし交流を深めている。</p>

## 2. 調査報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	サービスのあり方を端的に示した事業所独自の運営理念を掲げてケア実践を行っているが、地域との関係性を重視した地域密着型サービスとしての理念の見直しはしていない。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で話し合い、地域との関係性を取り入れた理念について話し合い、事業所独自の理念を見直し、作り上げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットや玄関に理念を掲示して職員や来訪者の目に触れやすくしてある。管理者と職員は理念を共有し、カンファレンス等で意識しながら話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人達とは、散歩や買い物時に挨拶や話をしたりしており、近隣の子供と交流の機会もある。自治会に加入し、事業所の行事参加への呼びかけのチラシを入れ回覧板を回す等の付き合いがある。地域の行事(鯉のぼりを上げる会、間野谷祭り、文化祭等)にも参加や遊びに立ち寄ってくれる等の付き合いがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価票を作成し、評価の意義を職員全員に伝え、評価項目の内容を確認しながら話し合い、自己評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的で開催しており、事業所から利用者の状況や行事報告等を行い、参加者から質問や意見、要望を受け話し合いを行っている。そこでの意見等は、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>年1回市担当者、介護相談員、事業所で三者懇談会が行なわれ意見交換をし運営に反映させるようにしている。伊勢崎市七夕祭り、グループホームいきいき事業等には積極的に参加をし交流を深めている。担当窓口には、報告事項等で訪れる機会を持ち連携を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族等の来訪時には、健康状態や暮らしぶりを伝えており、毎月、ホーム便りと一緒に担当者がお便りを添えて送っている。利用者の状態の変化に応じて、その都度報告を行っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。運営推進会議に参加や意見箱の設置、年1回アンケートを実施、介護計画の説明時等で要望や意見を聴くように努めている。意見、要望、苦情等は運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>出来るだけ職員の異動、離職がないように留意している。新入職員については、日々のケアの現場において管理者や経験者と共にケアにあたり指導をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には交代で参加し、毎月ホーム内研修会を開催しており報告し職員は共有している。報告書は閲覧してある。実践者研修、レベルアップ研修、ケアプラン作成、ストレス解消等の研修に参加しており、また、同法人の施設の研修会にも積極的に参加をしている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡協議会に加入し、管理者研修等に参加したり、ブロック別のスタッフ研修及び交換研修等に参加し、情報交換を行いサービスの質の向上等への取り組みが行なわれている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族からよく話を聴き、状況等を確認している。見学してもらい様子や雰囲気を知ってもらい、できる限り本人が納得して利用できるようにしている。職員が自宅や施設を訪問し、馴染みになり安心して利用が出来るようにしている。また、同法人の施設から利用の場合は遊びに来てもらうようにしている。入居後も環境に馴染めるよう家族等と相談しながら取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を大切に、得意なことを生活の中に取り入れ、習字、俳句、園芸、行事食、行事の意味等、教えてもらうことが多く、日常的に支えあう関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で言葉や表情、行動から本人の思いや意向の把握に努め、希望や意向に添えるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族等から意見や要望を聴き、介護計画に反映させるようにしている。毎月モニタリングを行い、担当者と計画作成者と話し合い利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。また、モニタリングを行い担当者話し合い、本人、家族等に説明し確認しながら現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望や状況に応じて、通院、買い物等必要な支援は柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人、家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう支援している。受診や通院は本人や家族等の希望に応じて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化による事業所の対応できる最大のケアについて説明を行っている。利用者の状態に応じてその都度話し合いを行うようにしており、全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを損なわないような対応や尊厳を大切に、言葉かけに留意しながらさり気なく支援をしている。個人情報保護法について研修会に参加しており、プライバシー保護の徹底をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの状態やその時の気持ちを大切にしながら、起床時間や食事、入浴、散歩、買い物等、できるだけ利用者の希望にそって支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は好みのアンケートや会話を参考にし作成をしている。調理や盛り付け、片付け等も利用者と一緒にいき、利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に月～土曜日と決めているが、職員が一方的に決めずに、利用者のその日の希望を確認したり、タイミングに合わせて入ってもらっている。一人ひとりがゆっくり入浴ができるよう対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道の指導、縫い物、園芸、食事づくり、片付け、手作りおやつ(ホットケーキ、おまんじゅう等)、居室やホールの掃除、洗濯物を干す、たたむ、テーブルを拭く、お茶を入れる、ゴミを捨てる、散歩、ドライブ、外食、買い物、晩酌、喫煙(戸外で)等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の状態に合わせて、散歩やドライブ、季節の花見、外食等の戸外に出て楽しめるように支援している。また、庭にベンチや椅子が設置されいつでも戸外に出て気分転換がはかれるよう支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、利用者が外出しそうな様子を察知したら、さり気なく言葉かけを行ったり、一緒に庭に出て過ごすなど、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、避難訓練、消火訓練、放水訓練等を行っている。運営推進会議で地域の人々の協力を得られるよう依頼をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養バランス、水分補給量等、毎日記録を行い職員は情報を共有している。系列施設の管理栄養士に献立をみてもらい助言や指導を受けている。一人ひとりの状態や好みに合わせて、トロミをつける、粥等の工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に花のプランターを設置し季節感を演出している。ホールにはソファを設置、行事の写真や書、作品等が飾られている。玄関ホールにベンチ、椅子、ピアノ、暖簾、季節の花があり、各ユニットの利用者の交流の場所となっており、居心地よさそうに過ごしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、籐の椅子、電話台、カラーボックス、時計、書道の道具、本、思い出の写真、絵画、衣装箱、毛布、暖簾、冷蔵庫等が持ち込まれており、本人が安心して過ごせる環境になっているように見受けられた。		